

医師キャリアに関する特別講演会を開催

～宮崎から世界へ 癌研究の最前線～

令和元年10月3日、医師キャリアを考える講演会を開催。
米国ロズウェルパーク癌研究所の勝田絵里子先生を講師に迎え、「宮崎から世界へ 癌研究の最前線」と題して講演いただきました。勝田先生は宮崎大学卒で当卒後臨床研修センターの第2期修了生です。

当日の会場には医学部生、研修医、ベテラン医師まで幅広く参加いただき、会場は超満員！勝田先生からは、留学、研究、女性キャリアなど大変多くの切り口から、後輩への熱い想いを乗せて講演いただき、大変多くの質疑にも答えていただきました。

参加者からは、「自分が研修医の時にこんなお話が聞きたかった」、「留学への色んな疑問が解消された」、「研究・留学に興味を持った」、「改めて留学にチャレンジをしたいと感じた」などの声をいただき、好評を博しました。

大学病院研修の特徴である縦横の繋がりと多様性。それを活かした今後の企画もぜひ楽しみに♪



講演会の様子



小松センター長、同期の大平先生と一枚

学会発表で若手奨励賞を受賞！

受賞者 1年次研修医 山元 楓子

学会名 第19回日本内分泌学会九州支部学術集会

賞名 若手奨励賞

演題 頸部の自発痛や圧痛のないatypical subacute thyroiditisの一例

指導診療科 宮崎大学 内分泌・代謝・糖尿病内科

受賞の声

この度、日本内分泌学会九州支部学術集会にて若手奨励賞を頂くことができました。

先生方には、お忙しい中、熱心にご指導頂き、初めての学会で緊張しましたが、なんとか発表を終えることができました。とても貴重な経験をさせて頂きました。

最後になりましたが、このような機会を設けてくださった、内分泌・代謝・糖尿病内科の先生方に、心より感謝申し上げます。

研修医の声

2年次 医科 松村 研吾



宮崎市保健所で牛乳の成分検査をしている松村先生

の2年間で多くの患者さんや職員の皆様にお世話になっていますので、その恩返しができるよう残りの研修に励みます。

研修期間も残り半年。現在は宮崎市保健所で研修中です。2年次の研修先やその期間は選択肢も多く、様々な病院や診療科等で研修できる点が大学研修の良いところ。今しかできない数多くの経験に感謝しながらの毎日です。期間が短いと慣れた頃に研修先が移りますが、そのおかげで環境適応能力もかなり身についたと感じます。

1年次 医科 吉田 佳奈

研修が始まって半年が経ちました。先生方は医師としても人間としても尊敬できる方ばかりで、多忙の中丁寧にご指導いただけて本当に有難く思います。自分の至らなさに落ち込むことが多い日々ですが、患者さんのためにも、目標とする医師像を目指して出来ることを一つずつ増やしていくのみだと思えます。

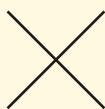
また、他大学出身の私にとっては宮崎に住みはじめて半年ということにもなります。休日は自然あふれる宮崎の魅力を存分に満喫し、宮崎をますます好きになっています。

卒後臨床研修センターにて
写真左：吉田先生、写真右：清水先生



宮崎大学

歯科口腔外科・矯正歯科
教授 山下 善弘
医局長 近藤 雄大



東京大学

口腔顎顔面外科・矯正歯科
教授 星 和人
准教授 西條 英人

(宮崎大学医学部 顎顔面口腔外科学分野 臨床教授)

大学病院同士の相互交流制度とは



宮崎大学 山下教授

相互の大学病院の研修医が、それぞれの大学病院での研修期間中に1か月を限度として異なる大学病院で研修し合うことができる制度で、今年スタートしました。歯学部のない宮崎の地で優秀な歯科口腔外科医を確保・育成していくために、約3年ほど前から東京大学の星教授、西條准教授とやりとりして実現した制度で、恐らく全国初となる珍しい制度です。

大学病院を相互に交流する珍しい制度、狙いとは

東京大学 西條准教授

同じ大学病院と言っても、宮崎と東京では扱う疾患や診療体制、人数など全くスタイルが違います。また、口腔外科にも色んな専門があり、それを全て網羅する先生はおらず、育った環境で得意分野が決まってくるということも過言ではありません。ですので、若い歯科研修医に色々な選択肢を与えられるフェアな研修環境を提供したい、それがこの制度の大きな狙いです。また若手医師の交流は視野を広げ、モチベーションの向上やスキルアップに必ず繋がると考えています。



今後の展望について

宮崎大学 山下教授 今回は宮崎大学の研修医2名が制度を活用しましたが、ぜひ東京大学の研修医にも宮崎に来ていただいで、視野の広い歯科医師育成に協働していきたいと思っています。

東京大学 西條准教授

まずは2大学から相互交流の文化を根付かせていき、若手医師の成長にプラスとなる、より有意義な研修へ醸成していけるといいですね。

相互研修1期生に聞きました



宮崎大学1年次研修医
白水 慎一郎 先生
Shirouzu Shinichiro
福岡県出身



宮崎大学1年次研修医
岩切 万実 先生
Iwakiri Mami
宮崎県出身

1. 相互研修への誘い

岩切 本来マッチング試験を受けて研修する東京大学で研修できると聞いて「**行かないという選択肢はない!**」と思い、立候補しました。

白水 国立大学の相互研修というのは大変珍しく、なかなか経験できる機会はありません。他の大学病院の口腔外科ではどんな施設、設備、治療をしているのか興味があり、この話を聞いた時にすぐ手を挙げました!

2. 異なる大学病院での研修から見たもの

岩切 同じ大学病院でも、やり方や使用しているものなど、違いが沢山ありました。どちらが良い悪いではなく、**他院で研修することで自分の視野を広げることができ、キャリアアップに繋がるのではないかと思います。**

具体的には、実習模型を準備いただき、他の研修医の人と一緒にインレー窩洞形成、支台歯形成からの寒天印象や真皮縫合の実習、ハーモニック実習、指導医による講義などを受けることができました。基本的に研修医が病棟管理を行ってかなり勉強していて、色々学ぶものがありました。また、**1ヶ月間も研修できるので東大研修医との繋がりができました。**



東大1年次研修医と岩切先生

白水 東京大学では研修医が病棟担当と外来担当を分担して、それぞれの期間を上級医と一緒に行動し、診療手技、入院患者の全身管理などを学んでいました。また4つのチームに分かれ、入院患者に対してオペ前から治療方針を話し合い患者にアプローチしていくのも勉強になりました。カンファレンスでは、多職種が集まり患者に対してアプローチする姿勢も勉強になりました。**違う環境に身を置き、色々知ることは、自分自身の人間形成**

の部分でも大変有意義な時間でした。

3. 今後に向けて

白水 宮崎大学では、早くて4月の末ぐらいから研修医が患者さんを担当して診療しています。他科からの依頼で、入院患者の齶蝕処置、義歯調整など一般歯科の依頼も来ますので、3か月の院外研修では一般歯科を希望しました。完璧な処置はまだ難しいですが、口腔外科でも入院患者さんに対して一般歯科も治療計画に含んでいきたいです。長期的な目標としては、腫瘍に興味がありますので、日々勉強して認定医、専門医を目指したいと考えています。



東大研修医と交流する白水先生

4. 後輩へのメッセージ

白水 1年目で、3つの病院(宮崎大学、3ヵ月研修先、東大病院)で研修できるのは非常に大きな経験です。それぞれの病院の色々な先生方が行う診療の見学、アシスタント、自分の診療後のフィードバックなどは、歯科医師としてのレベルアップにも繋がりますし、**ドクター10人いれば十人十色なので、多くを見て学べるのが宮大研修のお勧めポイントです!**

岩切 東大の先生方や研修医も優しく、東大の実習に参加させていただいたり各チームごとに様々なことを教えてくれ、得るものの大きい研修で、是非ともこのプログラムに参加してほしいと感じました。東京大学研修では、**自分のやる気次第でたくさんのことを学べるチャンスです。**迷っている方はぜひ相互研修を選択してみてください。



平日夜に東大研修医と東京ドームシティにて

また、研修だけではなく平日の仕事終わりや土日の休日には東京観光をしました。仕事終わりや毎週末に楽しいことが待っているのも魅力の一つではないでしょうか。

研修医川柳コンクール

今年は令和の新しい時代を迎え、研修医川柳という新しい企画をスタートしました。新社会人として、新米医師として、日々奮闘する研修医の先生方の生活や気持ちの一部をユーモアを交えて詠んでいただきました。掲載の句からは、研修医の先生が日々の診療の中で苦労したり戸惑っている様子がうかがえます。また、そういう大変さから両親への感謝の気持ちが芽生えるというのは、社会人の皆さんは経験があるかもしれません。

川柳から垣間見える研修医の先生方の様子を想像しながら、また、自身が社会に出たばかりの頃を思い出しながらご覧いただければと思います。来年度以降も続いていくかしら?と期待と不安の残る発案者兼総評担当者ですが、研修医の先生や冊子をご覧になっている方々が、川柳を通してちょっとほっこりした気持ちになれば幸いです。

卒後臨床研修センター 研修医川柳コンクール委員長 鈴木 翔

最優秀賞

回診で 立ち位置どこか 定まらず

詠み人 徳永 成将



選評 選考委員 卒後臨床研修センター 山下 理絵

ローテートの度に、回診で 右往左往する光景が想像できる、ほほえましい一句ですね。遠い昔の若かりし自分を思い出しました。研修医の先生たち、頑張れ!!

宮大キャラクター みゃおう君が
研修医となって再現!



2位

初任給 会えぬ親への 贈り物

詠み人 徳永 成将



選評 選考委員 卒後臨床研修センター 越田 智広

社会人として働き始め、まずしたい事と言えば、ここまで育ててくれた親御さんへの感謝の気持ちだろう。本当は、直接会って、親御さんに感謝の気持ちを伝えたいが、それも出来ない位の忙しさ。研修医として社会人として働き始めた状況が良く表現できています。



3位

診療科 慣れた頃には 次の科へ

詠み人 河野 文耶



選評 選考委員 卒後臨床研修センター 森 晃佑

一診療科のスタッフとして、仕事を覚えてくれた研修医の先生方が去ってしまうのは毎回つらいです(というか切実に困ります笑)。そんな我々にとっても研修医にとっても宿命とも言える研修医あるあるを的確に表現した一句だと思います。



4位

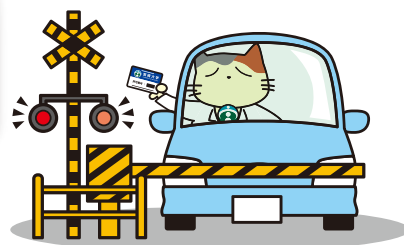
踏切で パスに手が伸び 疲れ知る

詠み人 下河 祐太



選評 選考委員 卒後臨床研修センター 木許 恭宏

踏切で無意識に大学の入構パスカードをかざしてハッとしたという、クスツとするような一句。こういう何気ない間違いで疲れを自覚することありますよね。同じ経験をしたこともあり、とても共感できる句でした。



5位

研修医 聞かれて困る 専門は?

詠み人 渡邊 龍志



選評 選考委員 卒後臨床研修センター 大平 洋明

ふと尋ねられた一言に戸惑う研修医。駆け出しですからと説明して患者さんを不安にさせないか、とか、いや待て、自分はそんなにベテランに見られているのか(ちょっとショック...)、など様々な思いがこの一瞬に詰め込まれているようです。



eレジフェア西日本へチーム宮崎が出陣

10月13日に西日本総合展示場(北九州市)で開催された「eレジフェア西日本」に、県内の基幹型臨床研修病院と“オール宮崎”で参加しました。九州内外から30名を超える医学生・研修医が本院ブースに来訪いただきました。本院からは研修医3名が参加して魅力をPR。研修先に本院を選んだ理由や、研修ローテートした診療科のことなど、学生目線から優しく分かりやすく語っていました。県外出身の研修医には、宮崎での生活面から過ごしやすい研修環境もPR。3人とも「ぜひ一度



病院見学に来て、病院の雰囲気を感じてほしい!」と強調して

いました。また専門医を考えている研修医も来訪して、本院指導医の話を熱心に耳を傾けていました。今回ブース訪問を通して興味が湧いた方は、病院見学を随時受け付けていますので、ご連絡をお待ちしています!

旅費支援制度もありますので、是非ご活用ください♪
詳しくは宮崎県地域医療支援機構ホームページをご覧ください。



写真左から喜多先生、林先生、河野先生

病院見学に
来てね!

病院見学
のお申込みはこちら



研修医マッチング結果

2020年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月17日(木)、歯科医師は10月24日(木)にマッチング結果が発表されました。

【医 師】

自主デザイン研修プログラム	28名
小児科研修重点プログラム	0名
産婦人科/周産期研修重点プログラム	0名
計	28名

【歯科医師】

歯科臨床研修プログラム	4名
-------------	----

行事案内 (2019年12月～2020年4月)

12月	9日(月)	歯科医師研修管理委員会
	3日(火)・9日(月)・16日(月)	1年次研修医(医科・歯科)グループ面談
	14日(土)・15日(日)	2019年度「指導医のための教育ワークショップ」(宮崎市)
1月	24日(金)15時	基本的臨床能力評価試験
2月	1日(土)・2日(日)	第113回歯科医師国家試験
	8日(土)・9日(日)	第114回医師国家試験
3月	上旬	医師研修管理委員会、及び歯科医師研修管理委員会(修了判定)
	16日(月)	医師・歯科医師国家試験合格発表
	下旬	研修医 修了式
4月	1日(水)～	令和2年度 新研修医オリエンテーション
	18日(土)	All Miyazaki研修医スタートアップセミナー&ウェルカムパーティー

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、
研修あるある話など、研修に係わる
話ならなんでも原稿募集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 学生支援課 卒後臨床研修係
内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

